



訓
幼
字
義

四

續
群
書
類
從
教
育
部
中
山
閱
了

仁仁
1.620
4也



〇四三
1620
4止



初 幼字義 卷之七

四端之心 九十則

四端と云ふは、孟子にありける。かくに具りたる善の
 惻隱。羞惡。辭讓。是非の四の心といふ。即仁義礼智の根をなす。
 惻隱と云ふは、物と不便はなすところ。羞惡と云ふは、ことごと
 りと云ふ。人のあはれむとあはむ。辭讓と云ふは、取まがれ
 物へ。辭退しゆらる。是非と云ふは、物ごのりあはと。ことごと
 り。此四の心は、人たるもの生をばはるといふことあり。故に
 孟子は曰く、人たる有斯四端也。猶有四肢也。又曰、惻隱之仁。心
 也。羞惡之心。義之端也。辭讓之心。禮之端也。是非之心。智之
 端也。ことごとく端といふは、端の根をなすところあり。此四の心は

初 幼字義

卷之七

造道齋藏

とぞひろくした。仁義礼智の道と云ふこと。これと
四端といふ。後世端と訓し、緒といふの程あり

宋初以来、仁義礼智と人の性は具つた。宋後の程子、朱子
も、人は四端の端と緒とを訓し、孟子の意は、後、緒、
といふ物のち、口のあり。仁の程は、あり。惻隱の
とあり。義の程は、あり。羞惡の、あり。礼の程は、あり。
とあり。辯讓の、あり。智の程は、あり。これの、あり。
たぐひ物の中、ふあり。その小口の、あり。集註
云、於有物在中、而緒見於外、也、とあり。を、端の字と、
く、用ひ、とあり。多く、端の義、とあり。孟子と、
註、以、来、と、意、あり。仁義礼智の根、と、あり。たぐひ、

搦った本を、その、二、と、あり。その、
涓滴、と、あり。それゆゑ、孟子は、若、
達、と、あり。物、の、小、あり。次、
の、あり。仁、義、礼、智、の、
端、の、字、と、緒、を、訓、し、
後、世、の、学、問、も、
と、あり。仁、義、礼、智、の、
の、不、認、る、
下、の、人、
た、
二、造、造、齋、藏

の仁より遠く或一人よるび或一家よるび或一國天下よるび
たふ久近のたひありしるごとく人の利を待恩徳とせしむる
と仁より遠く或一人よるび何よりおろしき事とせしむる
の仁より遠くは惻隱の仁の根を失ふあり孟子又曰先王
有不忍人之心斯有不忍人之政不忍人之心則惻隱乃
くありあり不忍人の政は即仁あり徳を失ふを失ひはくとの
仁を失ふは惻隱の仁を失ひるめりるものあり惻隱の仁は即
仁の根を源頼あり善惡辯讓を非の仁とほくさるあり四端
の端と端卒の義ふらるこのゆゑあり

後世の仁を失ふは惻緒を割るなり後世の仁は体用の説とせしめ宗
然不初の義と仁の存体と未發の性あり思慮運用未あり
とるべきと用とるは即惻隱善惡辯讓を非の仁とせしめ
ありづるは是れ具らるる仁の性ありありとせしめ
たり我の性ありありとせしめ善惡の性ありとせしめ
四端の端を割りて端緒とる仁義と未發の性ありとせしめ
のぼる端緒を割りて端緒とる仁の性ありとせしめ
善ありありとせしめ仁の性ありありとせしめ

擴充とる孟子の仁を擴充とるは或及むとせしめ
不仁先孟子の仁を擴充とるは或及むとせしめ
と或推してとる彼らとるは或及むとせしめ
ありたりと孟子の書とありたりとありたりとあり
消息ありとありは後世の真善の諸端とせしめ

一一。四端の心と物とを推及し。次第シを小善よとてし。是を
 擴充クの心。後世の擴充クの心。物欲を拂ハひ去る前の曰ク。小場の
 廣くめりあり。たゞ心鏡のくまるとして。一をより一す。一
 一すより一すありて。一面の鏡としく。一をくゞく。是は
 仁義礼智と性の程とん。人欲と鏡のくまるとして。はねる
 心よ。くまるとして。拂ハひ去るの次第シを小廣くめると擴充クの心。
 孟子集註云。此推廣クの充滿クを本然之量。則ち日新又
 新將有不能自己者矣云とあり。物学の仁。集註の擴充クとて。
 たゞ仁義字義は編シむる色シ。善とひろむ。はねる。孟子
 の意云あり。

充クの字乃刻集註云。充クの滿ク也云とあり。右註云。充クの意云。註
 での。是又善あり。集註の意云。仁義礼智の程を本然之量とて。人
 小。物欲を拂ハひ去る。本然の量と充滿ク。一又四方の鏡あり。く
 まるとして。一の二又四方小とあり。充クの刻クとて。はねる。
 本の成長ク。一流の色行クとて。次第シを以て。はねる。
 方善あり。一あり。後クを小善と考ふ。尚待クを養ク。養クは物
 不長クあり。一あり。人の善よとて。次第シを增長クとて。
 あり。がはねるの候あり。

充クの字。孟子書中に多くある。物と一と。一と。はねる。はねる
 あり。謂ク。有ク而取ク者。盜也。充ク類クを長ク之盡ク也云とあり。
 あり。此意云。取クは。物と一と。盜賊クとて。大小の分けの
 一と。一と。一と。有ク而取ク者。類とて。はねる。はねる。

かくも此の教見と云ふなり。物の子びんやう
 の偶ありてふれ。日々にあることありて。物必ず
 教見と云ふ。と云ふ。廣くはく。と云ふ。撲えの事。問答の
 日多し。諸孟字義云。若此則不自當測隱羞惡。辭讓之非
 者。則測隱羞惡。辭讓之非。不由而教也。明矣。然而
 當測隱之事。日間無幾。初終十教。日亦或無有。至於羞惡
 辭讓之非。之。不。然。若此。則用功之日。常少。而曠廢之日
 常多。雖欲用擴充之功。而得乎。且又欲擴充測隱
 之一端。於將有力不足之患。况欲於四端上逐一擴充之。則將
 有尤顧。而躬。無暇不堪。之患。孟子云。素固不若
 此。之。近。之。あり。且又孟子云。若夫遠庖厨。あり。そ。は。仁
 と云ふ。の。は。あり。と云ふ。教見と云ふ。は。庖厨の側
 又住居して。日。小。屠。門。の。殺。多。と。云。ふ。こと。あり。物。は
 庖厨と遠ざく。と云ふ。何ぞや。教見は。然れ。と云ふ。ひ。ら。ひ。ら
 小。ま。く。と。云。ふ。こと。又。云。見。無。欲。害。人。の。心。仁。不。可。勝。用
 也。と云ふ。害。と。云。ふ。こと。欲。と。云。ふ。こと。仁。不。可。勝。用。と云ふ。こと。
 小。ま。く。と。云。ふ。こと。教。見。と。云。ふ。こと。と。云。ふ。こと。人。は。具。あり
 と云ふ。こと。物。を。は。四。端。の。教。見。と。云。ふ。こと。と。云。ふ。こと。人。は。具。あり
 と云ふ。こと。物。を。は。四。端。の。教。見。と。云。ふ。こと。と。云。ふ。こと。人。は。具。あり
 及せしあり

學問の事。孟の。も。く。撲。え。の。一。事。小。く。と。云。ふ。こと。を。名。目。の。孟。子
 小。ま。く。と。云。ふ。こと。諸。君。の。聖。賢。の。と。云。ふ。皆。此。の。小。ま。く。と。云。ふ。こと
 一。事。の。と。云。ふ。こと。初。は。仁。と。云。ふ。こと。仁。不。可。勝。用。と云ふ。こと。

てあり。小兒の所物を得いざだもあつらひて人抱抱せりいなり
 て。是と孩抱の事。孟子の「世間」の事。けいめその人。世間と
 あり。いづのいづの事。いづの事。いづの事。いづの事。いづの事。
 若とあざい。抱抱せりいざだもあつらひて人抱抱せりいなり
 けい焼又ふれ。人の中性。あつらひて人抱抱せりいなり。抱抱せり
 の孩抱の事。いづの事。いづの事。いづの事。いづの事。いづの事。
 かふもや親とせり。か一人あつらひて人抱抱せりいなり。抱抱せり
 され人の性。あつらひて人抱抱せりいなり。抱抱せりいなり。抱抱せり
 あつらひて人抱抱せりいなり。抱抱せりいなり。抱抱せりいなり。抱抱せり
 人の事。遠くあつらひて人抱抱せりいなり。抱抱せりいなり。抱抱せり
 あり。故此孝の終る。親親仁也。致長義也。無他達也。仁也。孝也。
 し。孝をめりあり。終る後世の良知の事。名別の
 る。仁也。致長義也。無他達也。仁也。孝也。

陽明も致良知の語を傷ひ。當る自己一人とめりいなり。名
 し。孝をめりあり。終る後世の良知の事。名別の
 る。仁也。致長義也。無他達也。仁也。孝也。
 堯舜の見性の語は。孟子の事。あつらひて人抱抱せりいなり。抱抱せり
 して。孟子は。致知といふ。大なり。あつらひて人抱抱せりいなり。抱抱せり
 也。致良知といふ。致知といふ。大なり。あつらひて人抱抱せりいなり。抱抱せり
 物と先覺して。天下の物。抱抱せりいなり。抱抱せりいなり。抱抱せり
 下の事。いづの事。いづの事。いづの事。いづの事。いづの事。
 抱抱せりいなり。抱抱せりいなり。抱抱せりいなり。抱抱せりいなり。抱抱せり
 繁多あり。受用小切あり。王氏此語をたれ。致知といふ

尤ふあふど。自この一心とゆふふとていひ。自ら善程ふき
と。物の上は然れ。無つよそ程とゆふふあふど。人々の身良
知の本心^備ありあり。そとみづくと致良知といふあり。王氏の
名。繁文の弊とたられ。簡約せらるる。そそ意中へふ親
切あり。然れども聖賢の本意と考つるふ。大學は致知といひ
能心とてかゝりて。家國天下とて。物の先後本末といひ。故
つれ。あしきればよあふらうふとてあつ。くり。この心定か
ふあつらう。朱子の説かうらう本意はさんごと。又良知のゆひ。先
に論ぶる。朱子のゆひ。致良知といひ。本心とみづくるゆひ
あつらう。そ上孟子は。良知良能と。知能とあひあがて
あつらう。王氏良知と。けいひ。又良知とていひ。作相
とてうらふ。又さうさう

才 凡三則

才といは性の能あり。孟子集註。才猶材質。人々の能也。此註を
ゆらうあり。たうは才のうらう。棟梁の用ふたうらう。人の
とあつらう。そのものもさうあり。故は才質。才幹。才熟。用と。又
世の智あつらう。才といふ。才難とて。才不才といふ。と。皆才能
いふらう。色用とてあり
孟子云。性善。為不善。非才之罪也。程子云。才稟於氣。氣
有清濁。稟之清者。為賢。稟之濁者。為愚。此二說。何ぞ
と。朱子云。以才。程考之。程子。為密。此。孟子。孟子。いふらう
才。然の性。うらう。あつらう。とていひ。故は才に不善あり。程子

家のちと成より。身のちと成より。心のちと成より。て。
 誠意と用切のちと成より。先傷の款のちと成より。意と心の
 後と成より。心の神あり。意の用あり。事あり。上
 の條目の例あり。用の誠意と成り。あふ侍のちと正
 しく。誠意の款誠意を意者先正をんとして。款正意者
 先誠意を意と成り。平天下より。修身あり。此一條より
 修身あり。あふ侍より。正の誠意の款より。此一條より
 事と成り。あふ侍と成り。そを看より。第一あり。朱子の心
 あり。沈憫孝周祖の業。此意のあり。朱子の返答あり。あふ侍の
 ことと成り。あふ侍の波風と辭むことと成り。あふ侍の辭
 して意と用と成り。たふあり。あふ侍の意と成り。あふ侍の
 事。念懼好樂憂患のちと成り。皆心の用あり。用と成り。
 てあふ侍と成り。あふ侍の意と成り。あふ侍の意と成り。あふ侍
 ことと成り。あふ侍。

誠意と用切のちと成り。先傷の款のちと成より。意と心の
 後と成より。心の神あり。意の用あり。事あり。上
 の條目の例あり。用の誠意と成り。あふ侍のちと正
 しく。誠意の款誠意を意者先正をんとして。款正意者
 先誠意を意と成り。平天下より。修身あり。此一條より
 修身あり。あふ侍より。正の誠意の款より。此一條より
 事と成り。あふ侍と成り。そを看より。第一あり。朱子の心
 あり。沈憫孝周祖の業。此意のあり。朱子の返答あり。あふ侍の
 ことと成り。あふ侍の波風と辭むことと成り。あふ侍の辭
 して意と用と成り。たふあり。あふ侍の意と成り。あふ侍の
 事。念懼好樂憂患のちと成り。皆心の用あり。用と成り。
 てあふ侍と成り。あふ侍の意と成り。あふ侍の意と成り。あふ侍
 ことと成り。あふ侍。

意ありと云ふあり。易ありと云ふ言不盡意あり。何
 も一にあり。春秋と説きの^誅誅意の意あり。その後時の礼は賦子の不他は表
 たるやうあり。根のありと云ふあり。ことと敗後と云ふと誅と云
 り。又詩人のことと云ふ。ある者のありと云ふあり。いまだ云ふと推
 振と云ふ意。雪意といふ。又まおた今文章の内。兼註と云ふは
 天地の意。聖人のことと云ふ人の意。おのの類。何と此方よりた
 意とたはれ。求ることあり。その由文字義を推し。推すは
 るあり。想像と云ふことあり。往來計較と云ふ意あり。これより
 然るより。世と云ふこと。何を世といふあり。又人色と云ふこと。此
 は^意憶夜の懐とあり。また^意意と云ふこと。記憶の懐とあり。肉
 目ありと云ふ。胸臆の懐とあり。文字のむと云ふ。何を胸中と
 たくと云ふ。世といひやりと云ふことあり。そのこと。たぐらるる
 ことあり。多利と。彼を合と考らる。底の下の義。たぐらる
 或は。章句の所後と云ふ。註と用ひ。ことと云ふ人の兼註。大全
 多ふ。その意の字。龍授と云ふ。かたある。曰。後と云ふ。文字の
 正義。たぐらる。世間と熟し。用ひ。いひあり。ことと云ふ。何の
 せんともあり。自ら符合し。ことと云ふ。有。字。無。字
 のことと云ふ。平生のことと云ふ。ことと云ふ。経書の訓義。ことと云ふ。
 日本ありと云ふ。學問のけい。ことと云ふ。漢古の文字。世は廣くこと。
 ことと云ふ。千有。竹。奉。不及。ことと云ふ。世間の學問。せらるる人のこと
 新と云ふ。ことと云ふ。義。ことと云ふ。多し。今の人のことと云ふ。意

未見好徳如好父者、^也のこまへ、好善如好父、^也のこまへ、
 といふあり。見不善如探湯、^也のこまへ、悪悪必要、^也自^らく^はい^はれ^ば
 といふあり。あまをまこし。聖人の名ふたふ、あまをばねと
 ちまふのこまへ、何と善同好熱の上あり。好悪の誅あるものなるべし。
 卒生のこまへ、礼義と^ふのつこして、常^にい^はれ^ばあまをまこしやう
 小のこまへ、^も純熟の後、い^はれ^ばあまをまこし。そまゆ^に顔子^が
 のこまへ、^も善^たまふ^もと。非礼勿視、^也とあり。ま^もつ^て視^せば^言
 初の上、然^るに、^も玉^と有^て。意^上は^能く^力と^付る^もあり。視^せば^言
 初の亦あり、^も未^{あり}。意^上は^能く^力と^付る^もあり。内^{あり}。本^の意^と誅^はま^もつ^てか
 る^もといふあり。後^は視^せば^言初の上、^も後^は然^るに、^も玉^と有^て利^{あり}
 へ。後世^のあり、^もあ^まを^まこ^しやう^もあり。あ^まを^まこ^しやう^もあり。あ^まを^まこ^しやう^もあり。
 誅^意の^もあ^まを^まこ^しやう^もあり。最初^のあり、あ^まを^まこ^しやう^もあり。あ^まを^まこ^しやう^もあり。
 物^のよ^も大^學條^目の^もあり、^もあ^まを^まこ^しやう^もあり。自^修の^もあり、^もあ^まを^まこ^しやう^もあり。
 推^{して}へ^ば或^の或^と或^の己^ととて、^もの^もあ^まを^まこ^しやう^もあり。其^のあ^まを^まこ^しやう^もあり。
 彼^已正^也、^も其^の誅^の類^{あり}。孟子^のあり、^も人性^の善^とと
 といふあり。なん^の良^とと^も説^けば^も。意^上の^もあり、^もあ^まを^まこ^しやう^もあり。大^學
 小^の。後^國卒^のあり、^もあ^まを^まこ^しやう^もあり。彼^と説^んと^も説^んと^も。又^もあ^まを^まこ^しやう^もあり。
 といふあり。誅^意と^も條^目の^もあり、^もあ^まを^まこ^しやう^もあり。あ^まを^まこ^しやう^もあり。
 或^も諸^孟字^義。意^者ん^と。往^來針^殺者^とい^ふあり。あ^まを^まこ^しやう^もあり。
 といふあり。あ^まを^まこ^しやう^もあり。先^見と^もあり。あ^まを^まこ^しやう^もあり。あ^まを^まこ^しやう^もあり。

川刀字義 卷之七

十一 造造齋藏

とひおどの類あづ〜。その山の性もあま〜とら〜のあま
 ともあま〜ふも〜とら。新とら〜とら〜。あま〜とら〜とら
 かひ夜はるあま〜のあま〜とら〜。萌蘗のあま〜のあま〜とら〜
 上は牛羊の牧場とら〜。ひは〜とら〜。濯とら〜とら〜
 あま〜とら〜。故は孟子此章のた〜め。牛羊のあま〜とら〜た〜とら〜
 性善あま〜とら〜。あま〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 とも〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 義とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 生日以寝薄。而不足以存仁。義之良心とら〜とら〜とら〜とら〜
 あり。寝る不園。亦李延平の説とら〜とら〜。夜氣金清とら〜とら〜。又淇
 然虚明氣象。自可見矣とら〜とら〜。そのとら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 して。その小工とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 集註も。日以寝薄とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 子とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 也。寝る〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 也。此章の註も。例とら〜とら〜。今とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 楚辞遠遊篇も。一氣孔真とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 虚静之時。自存於己。而不相離矣。如此則於應世之務。皆
 虚以待之。於無為之先。而虚類自成。若化自也。盖虚成るとら〜
 若夫帝。不過如此。真仙とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 のとら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜

〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 集註も。日以寝薄とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 子とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 也。寝る〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 也。此章の註も。例とら〜とら〜。今とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 楚辞遠遊篇も。一氣孔真とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 虚静之時。自存於己。而不相離矣。如此則於應世之務。皆
 虚以待之。於無為之先。而虚類自成。若化自也。盖虚成るとら〜
 若夫帝。不過如此。真仙とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜
 のとら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜

うらうらくくくくく。をををのまよまよじり

訓初字義卷之七終

訓初字義卷之八

聖賢 九七則

聖賢といふは。聖の名あり。賢の名あり。聖は。人々の名をばうらうら
 あやまらあり。書經の洪範小治事と叙て。肅人。敬。聖といふ。
 周禮よ。六法とあり。知仁を義忠和といふ。論語に。君使臣。臣
 則君使教。何と。何と。何と。仁義忠和といふ。無極也
 といふ。人々の名あり。聖と賢といふ。仁の仁。義の義
 といふ。仁は。仁徳あり。人といふ。仁者。仁人といふ。仁
 論語。聖人。吾不得見。夫。得見者。子者。斯可矣。といふ。
 といふ。聖人といふ。君子といふ。君子といふ。君子といふ。君子
 といふ。伯夷。伊尹。柳下惠。と古の聖人。と稱す。まゝ。隘と不恭。我

道を小人との類。何と位のもるふ然といふ。是と云ふは、
いふ人のよりありは然といふ。論語は君子周旋しうぜんるは小人比ひ而不し同との類あり。何と位は徳は然といふ。故は比ひ傷やうり。
在位有徳の差別あり。其上後世よりんを。有徳の稱なづるも
る亦多くは在位は然といふ。その論語ありのより
一は多くは其の諸侯大夫の爲ふ示しなまあり。在位は
然。君子とのことまふと多し。

君子小人の在位は其の徳をも下小ありの人ありと。
氣象を成ありし。智恵を別とあり。人の多かきとあり。その人
は位ありし。その徳も多し。その徳も多し。その徳も多し。其
したるものあり。又その徳も多し。その徳も多し。其徳も多し。
て下人の氣象あり。その位はあり。その徳も多し。その徳も多し。其徳も多し。
いふ人あり。その徳も多し。その徳も多し。その徳も多し。其徳も多し。
いふ人あり。その徳も多し。その徳も多し。その徳も多し。其徳も多し。

君子とのこと。右註疏の中に君一方而子陰万民とあり。此説は
そのことあり。その徳も多し。その徳も多し。その徳も多し。其徳も多し。
右の名は。見たり。王前との君子齋記は。天子諸侯謂之君卿
大夫士謂之。其の後世の説あり。その徳も多し。その徳も多し。其徳も多し。
いふ人あり。その徳も多し。その徳も多し。その徳も多し。其徳も多し。
其徳も多し。其徳も多し。其徳も多し。其徳も多し。其徳も多し。
人の學問あり。君子の徳も多し。その徳も多し。その徳も多し。其徳も多し。
るふあり。故は論語は。君子小人の初迹あり。其徳も多し。其徳も多し。其徳も多し。

身とせむる規矩準繩なり。而初の法とてそのあり。孟子よ
 知言養氣の説あり。知言といふは衆言の是非を辨へる。
 と云ふは博文のあり。我善養吾浩然之氣といふは仁義の志
 あり。これのつらう鬼也といふは心あり。そ又此也。此は心賢
 のとす。まらくあせしむ。學問に終るとふは、まらくつらうとて決ま
 たり

いふは學問は經史の別あり。たゞ文と學とて書と讀といふは、漢よ
 りといふ。いふは聖賢のていどとて經といふ。後世の記録と史
 と名づけ經史の名つらう。そのら老子莊子の類ふと稱する書
 多くあり。佛經とて通といふ。諸子といふは、まらく諸儒の諸文著述
 あり。まらく。そと集といふ。そとありせしむ。經史の集といふは、書

の附四の文庫といふ。四庫の書といふ。そあり。經といふ。つらうの學問のな。史
 は古今の事とあり。後漢文章の正風俗の善惡。人物の賢否。悉
 そあり。つらうといふ。そと。綱領大治礼事の換益に章とて
 といふ。つらう。経といふ。つらう。の好尚は。又いふ。最
 といふ。つらう。経といふ。つらう。の史。經と讀と。無益のた。そ
 と。つらう。つらう。の史書と。つらう。の。経といふ。つらう。と。國。陋。は
 といふ。つらう。つらう。の。一。備。は。つらう。の。本。末。備。といふ。
 といふ。つらう。つらう。の。明。經。秀。文。と。學。者。と。二。科。といふ。
 といふ。つらう。つらう。の。子。集。の中。小。い。つらう。の。可。な。と
 といふ。つらう。つらう。の。を。正。し。つらう。の。決。め。と
 といふ。つらう。つらう。の。小。目。見。織。料。若。く。つらう。の。と。つらう。の。書。と

されしあり。予らうりて地をうり。その佛者二世痛廻の説よあて
 かりしあり。予らうりて佛者人の識しそのの陰陽造化よ
 うりて。各人平修の善悪よりうりて。或は物あり或は人あり
 て。二世十界の間は流轉とて説り。そと破入とてめ。鬼神の陰
 陽造化のあり方とてうりてありし。ゆゑを後とてまゝとてうりて見
 たり。程子曰。佛氏不識陰陽晝夜死生古今。安得謂形而上
 與聖人同乎。葉采の註よ。今之流轉。二氣之屈伸。歿氏推
 編也。いふ張子の説よ。此地をひてうりてあり。後を程張
 の説よ。のうりて。鬼の鬼神は然り。日月晝夜の徳本。草木
 の榮枯。人の呼吸とて鬼神とてあり。そも陰陽とてあり
 たり。いふを鬼とて。聖賢の書よそと鬼神とてあり。とて。葉采
 問事。鬼神。致鬼神。而遠之。中庸。鬼神。之為徳也。盛矣。乎と
 一の類。何をもと。天。地。人。鬼。を祀よ。そのの。本。體。とて
 たり。葉子曰。陰。陽。之。靈。陽。之。靈。とて。説。陰。陽。とて。あり。とて。と
 ころ。傷者。の。論。あり。諸。孟。字。義。よ。あり。とて。あり。とて。と
 そ。や。う。り。て。風。多。相。象。の。善。と。鬼。神。とて。あり。とて。あり。と
 たり。あり
 或曰。いふ。とて。日月。星辰。とて。あり。及。昨。風。伯。とて。あり。とて。あり
 久。暑。とて。いふ。皆。其。祀。の。徳。あり。後。を。造化。の。迹。陰。陽。の。具
 たり。とて。あり。とて。あり。とて。あり。とて。あり。とて。あり。とて。あり。と
 日月。の。めぐ。り。とて。あり。風。多。相。象。の。徳。本。とて。あり。とて。あり。と
 たり。とて。あり。とて。あり。とて。あり。とて。あり。とて。あり。とて。あり。と

訓切字義跋

古學先生嘗著語孟字義
 廻伊洛之狂深疏洙泗之
 正派標字立條以便研究
 然學者舊染不除其講求

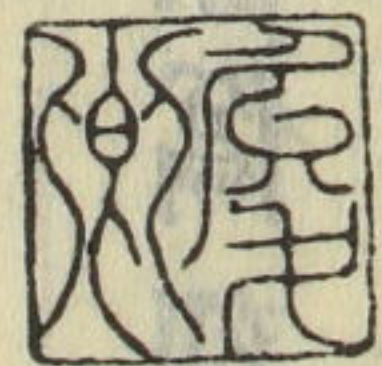
不精往之不免疑固故紹
述先生繼志述事重著
斯書而字義益以啓明其
以國字者蓋不啻欲易解
耳歆使夫世之少壯不力老

大徒悲者朝聞夕死而可
也歎扶翼世教黼黻聖經
至矣盡矣苟孰玩有得焉於
二書思過半勿以國字易
講而忽焉戊寅夏公美寓

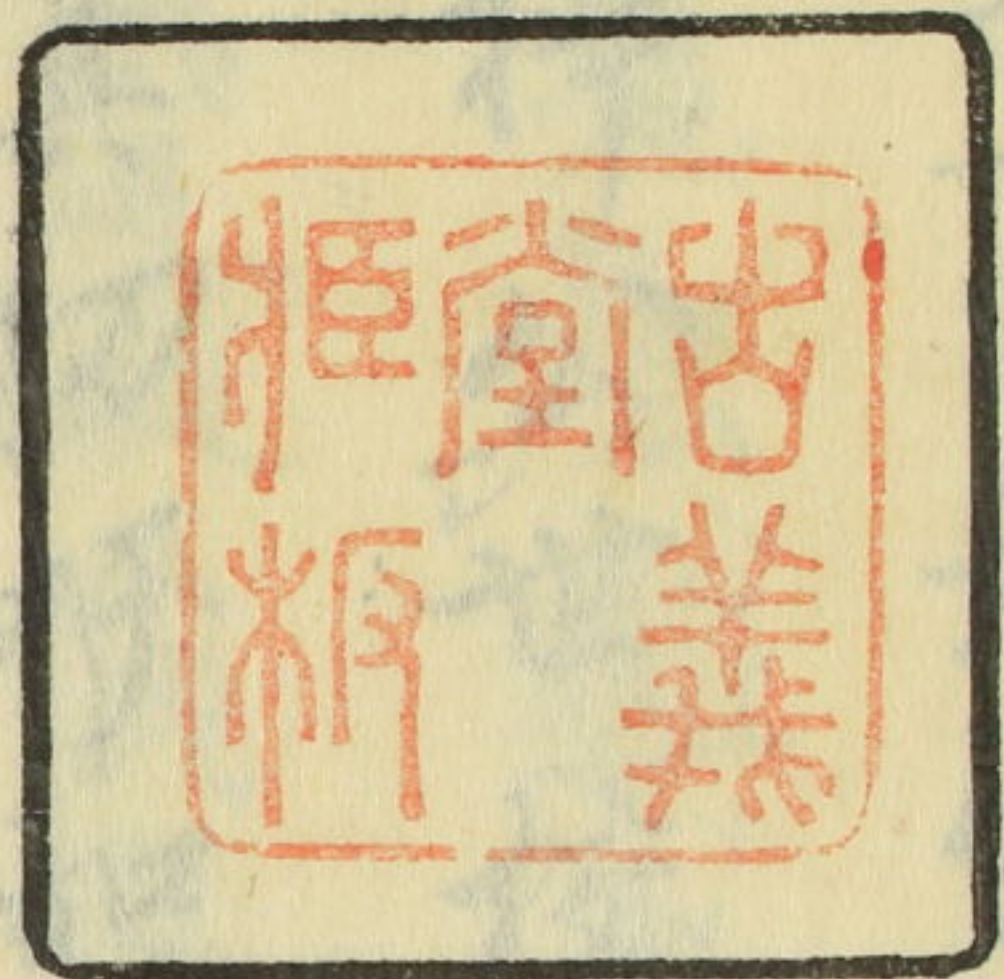
都下先生令嗣東所君將
 上梓公世校正始業使英紹
 終其功吁如英者豈敢校訂
 云乎但喜斯書啓迪學者
 謹督剞劂之事云爾

寶曆九年秋八月

後生西岡補口公英謹識



四寸類宋之入財



四方購求之人須

認此印為記若無

印者皆係偽刻

寶曆己卯冬十一月新刊

古義堂遺書目錄

發行

古義點四書白文

全五冊

古義點五經正文

全十一冊

仁齋先生著述

論語古義

十冊

孟子古義

七冊

中庸發揮

一冊

大學定本

一冊

童子問

三冊

語孟字義

二冊

古學先生文集

三冊

古學先生詩集

一冊

古學先生和歌集

一冊

易乾坤古義

附大象解 一冊

春秋經傳通解

二冊

日札極論

續近思錄鈔

文式

一冊

古學先生行物行書

德必有隣 雲月雨施

東涯先生著述

大學定本釋義 二冊

中庸發揮標釋 二冊

童子問標釋 一冊

周易經異通解 十冊

制度通 十三冊

名物六帖 六冊

經史博論 四冊

辨疑錄 四冊

古學旨要 二冊

古今學變 三冊

經學文衡 三冊

刊謬正俗 一冊

釋親考 一冊

通書管見 一冊

唐官鈔 三冊

歷代沿革圖鋪 一冊

復性辨 一冊

新助字考 二冊

官制 沿革圖鋪 一冊

秉燭譚 五冊

學文關鍵 一冊

鄒魯大旨 二冊

訓切字義 八冊

紹述先生文集 二十冊

紹述先生詩集 十冊

勢遊志 三冊

論語古義標註 二冊

孟字古義標註 二冊

讀孟字義標註 二冊

畢書集註標釋 六冊

周易傳義考異 九冊

讀易圖例 二冊

讀易私說 一冊

周易義例卦爻考 一冊

春秋胡傳辨疑 二冊

文集附錄 一冊

三奇一覽 一冊

名物六帖 七冊

間居筆錄 三冊

己丑筆記 庚寅日錄 一冊

東涯漫筆 二冊

大極管見 一冊

聖語述 一冊

經史論苑 一冊

天命或問 一冊

帝王譜畧 四冊

本朝官制沿革圖考 六冊

後漢官制	一冊	三韓紀畧	二冊	朝鮮官職考	一冊
倭漢紀元錄	一冊	盍簪錄	四冊	盍簪餘錄	二冊
輜軒小錄	一冊				
先泚傳	一冊	詩經要領	二冊	佔俾漫鈔	一冊
集語鈔	一冊	古官	一冊	宮殿門考	一冊
宮室名號	一冊	閱史隨鈔	一冊	國事襍語	一冊
考古襍編	一冊	倭漢通信雜誌	一冊	朝鮮雜誌	一冊
鷄林軍記	五冊	朝鮮國語文字母	二冊	文體辨畧	一冊
雜雋手錄	一冊	肆言類雋	一冊	東續套語	一冊

尤氏熟語	一冊	須記詩選	一冊	明詩絕奇	一冊
東涯詩話	一冊	東涯談叢	一冊	姓林全書	二冊
五音五位訣十例	二冊	避諱書	一冊	異名考	一冊
朝野通載	三冊	同續集	三冊	同新集	一冊
當世詩林	一冊	同續編	一冊	同遺編	一冊
時英文雋	三冊	同續編	二冊		
東所先生著述					
古義抄翼	七冊	中庸發揮抄翼	一冊	詩解	十八冊
詩解名物	一冊	操觚字訣	十五冊	古學十論	一冊

本質雜論 一冊 譯林 五冊 譯原 三冊

助字考小解 二冊 四聲彙辨 五冊 集帖姓名 二冊

脩成先生文集十冊 脩成先生詩集 五冊

觀其文集 三冊 同類錄 一冊

當世結林 一冊 同類錄 一冊

讀理鉅考 三冊 同類錄 三冊

全方此類結十冊 同類錄 三冊

平安書肆

林權兵衛
林芳兵衛

